

The Fukushima Nuclear Accident Affected Mothers' Depression but Not Maternal Confidence

福島原子力発電所事故は母親のうつ傾向に影響したが、
育児の自信には影響しなかった

後藤あや

福島県立医科大学

著者

後藤あや¹、Evelyn.J.Bromet²、太田操³、大津留晶⁴、安村誠司⁴、藤森敬也⁴、放射線医学県民健康管理センター
妊産婦調査室

1 福島県立医科大学、2 ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校、3 福島県立医科大学看護学部、4 福島県
立医科大学医学部

要約

福島原子力発電所事故により広い地域が放射線により汚染されました。原子力発電所事故は特に母子の精神健康
度に影響を及ぼすことが明らかになっています。本研究では、福島県で妊娠届出をした女性を対象とした2回の
調査から得られたデータを用いて(2012年調査 6686人対象、2013年調査 6423人対象)、震災関連項目と母親のう
つ傾向および育児の自信の関連を分析しました。

うつ傾向の母親は、2012年は25%、2013年は24%でした。育児の自信が低い母親は、2012年は53%、2013年は
55%でした。うつ傾向と育児の自信が低いことは有意に関連しているにもかかわらず、母児の特徴を調整した分
析の結果、避難と放射線の心配はうつ傾向には関係していたが、育児の自信が低いことには関係していませんで
した。これは、原子力発電所事故の母親の精神健康度への影響と同時に、育児における母親のレジリエンスを示唆
するものです。

掲載情報

「Asia Pacific Journal of Public Health」(2017)

Goto A, Bromet EJ, Ota M, Ohtsuru A, Yasumura S, Fujimori K; Pregnancy and Birth Survey Group of the Fukushima
Health Management Survey

Asia Pacific Journal of Public Health. 2017 Mar; 29(2_suppl):139S-150S.